

令和8年度全国学力・学習状況調査結果及び概要について

R 8. 9 山形市立明治小学校

1 全国・県・市の結果（平均正答率）について

<小学校（公立）>

	国語	算数
山形市	61	55
山形県	58	53
全国	60. 9	56. 4

本校の平均正答率について

《国語》

全国・県・市と比較すると、下回っています。

《算数》

全国・県・市と比較すると、下回っています。

※ 本校平均正答率の数値については、本校の当該学年児童数が7名（うち1人「欠席」）であることをご承知おきください。小集団での平均値となりますので、児童一人一人の結果について全国・県・市平均と比較し、成果や課題を捉え、今後の学習に生かしていくことが大切であることをご理解ください。

2 国語・算数の成果（○）と課題（▲）について

《国語》

- 比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができること（映像だけでは伝わりにくい、ことを音声で伝える。「風船をふくらませるように息をふきこむ→息の強さを伝える効果」
- 花山さんの学級で夏を快適に過ごすためのくふうについて、考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解すること（「強い日差しが照りつけるえん天下では、はだを出しすぎないように着る物をくふうすることができそうだ」→「例えば、長そでのシャツをはおるなどのくふうが考えられる。」
- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと（「みじか-い」→「短い」）
- 【文章】を読んで理解したことに基づいて、自分の経験と結びつけて考えをまとめて書くこと（条件①文章を読んで、考えたこと②文章から言葉や文を取り上げること③自分の経験から書くこと）
- ▲ 相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、【構成メモ】の工夫として適切なものを選ぶこと（岡野さんたちの考えをもとに、動画の【構成メモ】を工夫して作成した表を見て適切な文を1つ選ぶ）
- ▲ 動画の一部の音声部分の工夫として適切なものを選択すること（岡野さんのグループは「草花遊びをしようかい」することになり、休み時間の過ごし方を動画にして、一部をくふうしてさつえいしたこととして適切な文を2つ選ぶ）
- ▲ 花山さんの文章「暑い夏を快適に過ごすための衣服のくふう」を説明したものとして、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること
- ▲ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと（「ふしぎ」→「不思議」）

- ▲ 林さんが『苦手』と『嫌い』（辻村深月作）の文章を理解するために、傍線を引いたメモをどのように整理したのか説明したものとして適切な文を選ぶこと

＜算数＞

- 立方体の体積の計算による求め方について理解すること（1辺が8cmの立方体面積）
- 74291の百の位を四捨五入して、千までの概数で表したものを選ぶこと
- イシガメ14匹が動物園全体のカメの数の20%に当たる時、動物園のカメの数を求める式と答えを書くこと
- 1, 5, 9の3枚のカードを当てはめてつくることのできる最も大きい数を書くこと
- 1年生全員分のアンケートが整理されていない学級を見つけ、その根拠となる人数を表1と表2の中の人数を比べて探し、表の中の数と言葉を用いて書くこと
- ▲ 直方体の箱の形（12cm・8cm・5cm）の6つの面のうち、4つの面（縦8cm・横5cmが2つと、縦8cm・横12cmが2つ）が示されている時、残りの2つの面の縦と横の長さを書くこと
- ▲ 1つの直方体の箱の形（25cm・10cm・7cm）を4つの組み合わせ方で、宅配便の送料に違いがあることを表から読み取り、直方体ア1,210円に対し、直方体イの送料の金額と、その送料の求め方を数や言葉を使って書くこと
- ▲ 赤いテープの長さが白いテープの長さの1.5倍になっている図を2つ選ぶこと
- ▲ $\frac{7}{3}$ と $\frac{7}{4}$ （異分母の分数）の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて書くこと
- ▲ 数直線上で $\frac{5}{3}$ （分数）の目盛が示されている時、1を表す目盛を正しく見つけること

3 傾向と対策について

＜国語＞

- ・ 普段の授業で、本時で「身に付けたい力」を確認した上で、相手や目的を一層意識して学習を行う見通しを持たせ、学習を振り返り理解できたか確認する場を大切にし、教師が価値づけを行うなど、学級全体へ広げて一人一人の学習内容の理解に努めます。
- ・ 学年別漢字配当表に示されている漢字、言葉のきまりについて、文章の中で適切にとらえたり、書いたりできるよう、くり返し復習をしていきます。（場面に応じた同音異義語の扱い：夏は「暑い（天気・気温）」、「熱い（温度・気持ち）」お茶、「厚い（物の幅）」本）
- ・ 言葉の力は全ての学習の土台となります。今年度から、学校でもタブレットにyommokkaを導入して様々な本に触れる機会を設けたり、読み聞かせボランティア活動を増やしたりして、様々な場面に応じた言葉の意味や使い方を推進します。

＜算数＞

- ・ 赤・白のテープに関する問題は、示された基準量（今回は赤テープ）と比較量（今回は白テープ）を比べてみたり、身近なもの（例えばゴム）を用いて伸ばしたりするなど、データの特徴や傾向をとらえて適切に判断する場面を増やしていきます。

- ・ 立体図形について、図形を構成する要素に着目させ、積み木などの具体物を使ったり、展開図を用いて、どの辺とどの辺が対応しているのかに着目させたりする操作を通して図形の性質や構成の仕方、計量の仕方について考察できるように努めます。
- ・ 分数の大小の比較について（今回は $7/3$ と $7/4$ の大小）、分母を 12 にした時にどちらが大きいのか計算したり、帯分数を用いたりするなど、その説明を数や言葉を用いて説明したり、記述したりする機会を増やします。
- ・ 算数を身の周りの事象と結び付けて考える活動や、数理的に処理することの良さを実感できる授業づくりをめざします。
- ・ 算数以外の教科においても、表やグラフなどからきまりや傾向を発見する活動等を含んだ数学的活動を通して、日々の生活に根差した理解をもとに習熟を図っていきます。

2 児童質問紙（学習・生活状況等）の結果から

【家庭生活に関わること】（当てはまる・やや当てはまる児童の割合：％）

項 目			本校	県	全国
1	平日の家庭学習時間	（1 時間未満）	66.6	45.6	39.3
		（1 時間以上）	33.3	53.8	49.9
2	土曜日や日曜日などの学校が休みの日の学習時間	（1 時間未満）	100.0	36.8	48.7
		（1 時間以上）	0	45.4	39.0
3	平日のテレビゲーム（スマートフォンを使ったゲームも含む）を使用する時間	（2 時間未満）	16.7	31.6	42.1
		（2 時間以上）	83.4	68.1	57.6
4	携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている		今年度質問項目なし		
5	朝食を毎日食べている		83.3	85.0	83.1
6	毎日、同じくらいの時刻に寝ている		100.0	83.5	82.8
7	新聞を読んでいる。		0	10.9	10.0
8	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある		100.0	92.9	92.5

【児童自身に関わること】（そう思う・どちらかといえばそう思う児童の割合：％）

項 目			本校	県	全国
1	自分にはよいところがある		83.4	85.9	85.6
2	いじめはどんな理由があってもいけないことだ		100.0	96.4	96.2
3	人の役に立つ人間になりたい		100.0	95.9	95.8
4	将来の夢や目標を持っている		100.0	81.6	81.8
5	学校に行くのは楽しいと思う		100.0	84.7	85.7
6	国語の勉強は好きだ		50.0	63.0	57.4
7	算数の勉強は好きだ		50.0	57.5	57.6
8	理科の勉強は好きだ		今年度質問項目なし		
9	英語の勉強は好きだ		50.0	69.5	66.7

- 毎日、同じくらいの時刻には寝ており、しっかり睡眠をとって、次の日に備えていることがわかります。また、普段の生活の中で、幸せな気持ちになる児童が全員となっており、昨年度から取り組んできた校内の人間関係構築や、学校行事等で自分の役割を十分に果たしてきた成果と捉えております。
- いじめはいけないこと、人の役に立つ人間になりたいと考えていること、将来の夢や希望を持っていること、学校行くのは楽しいと捉えている児童の割合は、100%となっており、昨年度の児童の割合よりも増えました。また、自分にはよいところがあると捉えている児童は約84%となっており、自己肯定感が育ちつつあります。

▲ 国語・算数・英語（外国語）の学習が「好き」と答えている児童の割合は、残念ながら半分程度でした。日々の授業の導入の工夫、ALT との TT 授業などの改善を図ってまいります。

▲ 算数の学習向上においては、山形県の最重要課題とされており、これまでの学習の中でどんな所につまづきが見られるのか、振り返る場面を通して、個別対応をしてきました。また、今年度は、夏季休業中に全教職員が全国学力調査で出題された同じ問題を解き合い、どんな所で児童ができなかったのかを話し合ったところです。結果として、全国学力調査の算数の設問が、日々の授業で取り扱っている設問よりも長く、どんなことを聞かれているのか理解できていなかった点が浮き彫りとなりました。ネット環境に慣れた児童達は、目まぐるしく変わるゲームには対応できていますが、その反面じっくりと考えることが苦手な児童が、ここ数年全国的に増え続けております。この点については、山形県・山形市教育委員会の指導を受けて、今後対応して参ります。

▲ 平日にテレビゲームを使用する時間が、本校児童では、2時間以上が8割と長くなっており、家庭での学習時間が1時間未満児童の割合が非常に高くなっています。

9月末に、七中学区養護教諭部会を行い、毎月7日に実施しているメディアコントロールすこやかディの結果を併せて、児童及び保護者の皆様にご報告し、スマホ・ゲーム依存における認知機能への影響について再度お知らせする予定です。

お 知 ら せ

10/17(土)第2回資源回収 どうぞご協力ください。
9月中に、詳しい案内を回覧させていただきます。